

山田原畜産施設の臭気問題

【背景】 山田原地区では、養豚場から発生するにおいが地域の生活に影響を与えており、長年の課題となっています。市は県や専門機関と協力し、においの発生源や流れ方を科学的に調査。風向きや気温の変化で、においが地表を這うように住宅地に流れやすくなることが確認されました。においの成分には低級脂肪酸や硫黄化合物が含まれており、気象条件によっては滞留しやすい特徴があります。

【市の対応】 老朽化した設備の更新を進め、豚舎や貯留槽の清掃、糞尿の早期搬出、消臭剤の散布など、においを減らすための取組を実施しています。2mmメッシュの遮蔽ネットの設置なども行い、周辺の臭気濃度は改善傾向が見られます。ただし、住宅地では気象条件により依然として臭いが感じられることがあり、引き続き調査・改善を行う必要があります。市は玖珠家畜保健衛生所など関係機関と連携し、環境保全条例に基づく管理状況の確認も進めています。

【崎尾の提案】 においの問題は感覚だけで判断するのではなく、科学的な「数値化」による見える化が必要だと指摘。測定データを住民にも公開し、透明性を高めることが信頼につながると提案しました。さらに、市・事業者・地域住民の三者が参加する協議の場を設け、課題や対策を一緒に話し合いながら進めていく仕組みの必要性を訴えました。

【まとめ】 > 「科学的根拠と対話で、地域の信頼を取り戻す。」 においの問題は、数字で現状を共有し、三者が協力して取り組むことが重要です。市長も現地確認を行い、「丁寧に対応を続ける」と答弁しました。